

# 消費者物価 3.1%上昇

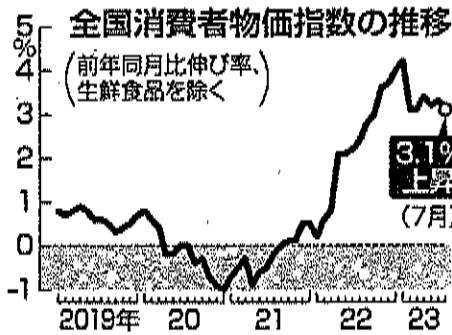
## 7月食料など高い伸び

総務省が18日発表した7月の全国消費者物価指数(2020年=100)は、価格変動の大きい生鮮食品を除く総合指数が105.4と、前年同月比3.1%上昇しました。電気・ガス代の下落によって、伸び率は6月の3.3%から縮小しましたが、食料などを中心に高い伸びが続きます。

上昇は23カ月連続。

生鮮食品を除く食料の価格は9.2%上昇。原材料費や物流費の高騰によってアイスクリームが11.5%上昇。飼料価格が上がっているほか、鳥インフルエンザの影響で鶏卵も36.2%伸びました。

エネルギー価格の下落率は8.7%と、前月の6.6%から拡大。うち電気代



6%から拡大。うち電気代は16.6%、都市ガス代は9.0%それぞれ下落しました。燃料価格の下落のほかに、政府の負担軽減策によ

って押し下げられました。

一方、ガソリン代は1.1%上昇と6カ月ぶりにプラスに転じました。政府の補助金縮小が影響しました。

このほか、観光需要の回復を受けて宿泊料が15.1%、一部で料金プラン改定があった通信料(携帯電話)が10.2%上昇しました。

生活実感に近い生鮮食品を含む総合指数は3.3%上昇。生鮮食品とエネルギーを除く総合指数も4.3%伸びました。